

【月刊】

# キャッチ ピース

# 32

通巻111号/1995.6 定価100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！  
米軍基地を撤去しよう！  
反核運動を継続し、核廃絶を！  
憲法9条を世界に！  
市民による平和政策を提起しよう！  
草の根の国際共同作業を進めよう！

NPTを越える新しい時代と非核法

500隻目の原子力艦入港に抗議行動●ヨコスカから  
50年目の「慰霊の日」を迎えて●沖縄から：報告⑨  
地域住民にとっての「基地公開」●厚木から  
在日米軍基地に関する基地周辺住民の意見③  
「日米安保報告」と自治体／「不戦決議」に思う



フランスの核実験再開決定  
に抗議する 六月二十六日・フランス大使館

写真・山中悦子

●維持会員（月額） ●参加会員（月額） ●通信会員（年額）

個人1口1000円 個人1口500円 3000円

団体1口2000円 団体1口1000円

（会費は本誌購読料を含みます）

脱軍備ネットワーク

## キャッチピース

今更私ごとき者が、何を言わんや  
ではあります、なんともお粗末な  
この度の「不戦決議」、キャッチピー  
スとしても黙って見過ごすことは出  
来ず……。という訳でここに粗文をひ  
とつ。

内容、文章表現、採決の仕方……。ど  
れをとっても不評だったうえに、国  
会議員の証人喚問をめぐる与野党間  
の取り引きの材料にまでされたこと  
で、「戦後五十年国会決議」はその  
みつともなさここに極まりのもの  
となった。それ故かえってまじめな  
関心を寄せていた国民の注目度はさ  
らに高まり、この一ヵ月間AUM  
ニュースやハイジャックニュースと  
いう強敵を向こうに回し、決議関連  
の意見はケンケンガクガク、新聞紙  
上を席巻した。そこでは大半の人々  
が「植民地主義」や「侵略」を認め  
ようとしないう国会議員の歴史認識に  
呆れ、アジア諸国が「謝罪」や「不  
戦の決意」の表現がないことに不満  
を表明したことを当然だと思った。  
「歴史認識の違い」が国会議員と国  
民との間に、これほど大きく存在し

## 「不戦決議」 に想う

### 何回唸っても唸り足りない 「歴史認識」のギャップ

ていたとは……。例の渡辺発言だけで  
はない。採決直前の自民党総務会  
の主なやりとり(朝日新聞)によれ  
ば、「植民地支配」「侵略」をして悪  
うございましてと、前科者として頭  
を下げるような決議に名前を連ねる  
ことはできない(中尾栄一)とか、  
「これは国家の尊厳にかかわる問題  
だ。連立を守るとかそんな次元で後  
世に残すのは問題だ。軽率に植民地  
支配なんて言葉を使つてはならない」  
(江藤隆美)等々出た出た。また新進  
党の中で中尾サンたちと同じような  
考えを持つ議員は「正しい歴史を伝  
える国会議員連盟」というとんでも  
ない名前を名乗り、「国会に歴史を判  
定する権能はない」と言明。ウー  
ン！ウーン！何回唸っても唸り足り  
ない。

去る三月、私はコペンハーゲンで  
開催された「国連・社会開発サミツ  
ト」のNGOフォーラムに参加した。  
期間中にちようど世界女性デーがあ  
り、大きなホールが世界中から参加  
した女性たちで埋まった。そこで  
フィリピン人女性が「従軍慰安婦」

に対する謝罪と補償を日本政府に求  
め続けていくと発言すると参加者全  
員から連帯の大きな拍手が彼女に寄  
せられた。自分が、母が、姉妹が、妻  
が、娘が「従軍慰安婦」という運命  
を背負わされたとして、謝罪を要求  
しない人がこの世にいるだろうか。  
戦争で傷つけ合うことなどもう二度  
とゴメン。どんなことがあってもも  
う決して戦つたりしないと誓うこと  
がどうしてそんなにむずかしいこと  
なのだろう。

日本の敗戦五〇周年という節目の  
年となった今年、私の同級生たちは  
次々に五〇才の舞台に乗り始め、人  
生の次なるステップを充実させよう  
と張り切っている。私も次の時代を  
より良くする責任をどう果たすかを  
問いつけたと思う。

## 山中悦子

編集部

# フランスの 核実験再開 決定に 抗議を！

● 六月十三日、フランスは南太  
平洋での核実験を九月から再開し、  
来年五月までに九回の実験を行う  
と発表した。NPT(核不拡散条  
約)延長にあたって「核実験の自  
制」が決定された矢先、包括的核実  
験禁止条約(CTBT)が来年調印  
されることを見越した「かけ込み」  
的決定である。

● タヒチでは住民による大規模  
なすわり込み抗議が展開されてい  
る。オーストラリア、ニュージー  
ランド等各国政府も声明や具体的  
対抗措置でこの決定に抗議してい  
る。

● 六月二六日、原水禁、グリー  
ンピース、原子力資料情報室等の  
よびかけでフランス大使館への抗  
議行動が四四団体の連名で行われ  
た。キャッチピースも抗議文を  
もって参加した。引きつづき抗議  
の声を！

大使館政治担当参事官に抗議



写真・山中悦子

持し、連帯します。また、貴国  
の決定に抗議して貴国の艦船の  
入港を拒否したニュージーラ  
ンド、オーストラリア両国、ある  
いはブリスベン市など地方自  
治体の決定を支持します。

私たちは、より具体的で目に  
見える対抗措置を日本政府や地  
方自治体をとるよう、働きかけ  
を強め、貴国に決定の撤回を求  
め続けていきます。

駐日大使館はこの抗議文を翻  
訳し、本国に伝達することを約  
束してください。

1995.6.26

抗議先 ● フランス大使館

東京都港区南麻布四一十一 四四〇三(五四二〇) 八八〇〇

### フランス政府への抗議文 キャッチピース

私たち、核兵器とすべての軍備  
の撤廃を求める市民の全国ネット  
ワークは、貴国が南太平洋におけ  
る核実験の再開を決定したことに  
強く抗議し、決定の即時撤回を求  
めます。

核実験再開は、

● 1966年から91年までの  
の四半世紀にわたって貴国の核  
爆発によって強制されてきた、  
南太平洋の人々の生命と主権、  
環境と生態系に対する破壊と侵  
害の歴史に、新たな、消し去る  
ことのできない1ページを書き  
加えるものです。

● 「包括的核実験禁止条約」  
の1996年成立をめざす国際

# NPTを越える 新しい時代が 始まった

「非核法」で日本の役割を  
明確にしよう

梅林宏道

ニューヨークのNPT延長会議と平行して開催されたNGOの行事に参加して、反核運動の今後について刺激を受けた。海外の運動に連携しながら核兵器の問題に取り組む、政党を越えた市民運動が日本にはまだ生まれていない。その必要性をあらためて痛感した。

## 中国・フランスの 核実験

NPT（核不拡散条約）の無期限延長が決まった三日後に中国が核実

ある。ウソである。  
九月から九カ月の間に八回の実験をするという今回の決定は、過去のフランスの実績と比較しても最高水準のものである。これは一年に一回のペースとなるが、過去にこれを越えた実験をしたのは、一九八〇年の一三回、八一年の二二回しかない。最近のモラトリアムに入る前の実績は、九〇年、九一年とも年間六回である。「自制」の痕跡などみじんも見られない。

中国もフランスも一九九六年にCTBTが合意されたときには、それに参加して実験を止めると言っている。実験を止めるための実験だという訳である。どんな理由であっても核実験は許されない、新疆ロプノルやムルロア環境の環境と住民への被害をこれ以上重ねてはならない、ということはもちろんであるが、それをさておいても、CTBTに向かう情勢の中で、彼らの言い分に二点の注意を喚起したい。

まず第一に、中国もフランスもCTBT締結後においても核戦略体制を維持することを、当然のことのよ

験をした。一カ月後にはフランスが九月から核実験を再開すると発表した。NPT延長会議で「全面的核実験禁止条約（CTBT）が発効するまで、核保有国は最大限、実験を自制すべきである」という決議文を、彼らも含めて採択したにもかかわらずである。  
ただちにPCDS（太平洋軍備撤廃運動）は抗議文を送ったが、フランス大使館から弁明のコミュニケーションが送られてきた。そこには、こともあろうに「国際合意を完全に遵守し、最大限の自制をしている」と書いて

うに考えていることである。これは、核実験禁止が核廃絶への一つの段階であるという認識がCTBTの中で明確に述べられる必要があることを示している。

第二に、コンピュータ・シミュレーションによる核兵器実験を可能にするために、地震波では検出できないような小規模実験がCTBTからは除外される可能性がますます危惧される事態となった。CTBTは、核分裂反応を伴うような核兵器実験はすべて禁止すべきである。

## 注目すべき 再検討会議の強化

中国やフランスの核実験は、NPT延長会議後の核問題をめぐる国際情勢が、以前にも増して厳しく、手がかりを失ったかのような印象をもたらしている。しかし、本当にそうだろうか。

確かに、NPT延長会議は、核保有国が核兵器維持にいかにか強く執着しているかを明らかにした。それを包囲する非同盟運動の団結力の限界

NPT延長会議が開かれたニューヨークには各国からNGOが結集した。写真は韓国の反核グループのメンバーとフィジーからきた非核独立太平洋運動の活動家。（写真・梅林）



も露呈された。しかし同時に、延長会議は、いわゆる西側諸国が決して一枚岩でないことも明らかにした。無期限延長を支持したスウェーデンやオーストラリアのような国々も、南アフリカ案をめぐっては核軍縮を促進させる動きを示した。そして、何よりもこれらの国々は、NGOに代弁されるそれぞれの国の世論に包囲されていることがはっきりした。今回の延長会議を通して核兵器国もまた、包囲網を縮められたことを見逃してはならないであろう。

その意味で、採択された「再検討過程の強化」に関する決議文に注目する必要がある。これはNPT延長会議が残した成果であり、NGOがいかにそれを活用するかが問われている。

決議によると、これまでと同様に五年ごとに開かれる「NPT再検討会議」（今回は二〇〇〇年）は、これまでどのように過去五年間を点検するだけではなく、将来の前進のための方法をも論ずるものとなった。しかも、再検討会議の開かれる三年前から準備委員会を開くこととなった

新倉裕史 非核市民宣言運動ヨコスカ

## 原子力艦 入港に 抗議



阻止や抗議の集会は七回に及び、延べ十二万八千人余りが参加した。しかし、五〇〇回目の七日は市民グループ約十人がゲート前で抗議行動を起こすにとどまった。最近では反対運動のデモ行進があっても市民の関心は薄く、「交通渋滞の原因」と非難する声も聞かれるほど運動は衰退してきている(神奈川県新聞六月八日)。

「約三十年前、スヌークは首都圏初の原潜寄港とあって、寄港

六月七日、午後一時三〇分。ロサンゼルス級原潜ニューヨークシティがヨコスカ基地に入港した。一九六六年五月三〇日の原潜スヌークから数えて、五〇〇隻目の原子力艦船の入港だ。何はさておいても五〇〇隻、この数に驚くべきだろう。驚きがないところには、怒りも生まれてこない。不安も怒りもないところに、抗議の行動もうまればしないから。(ホントかな?)

正確に言えば、十二万人も集まったときの方が、より大きな交通渋滞の原因になったし、二〇〇〜三〇〇人のデモではくやしいことに交通渋滞も起こせないのだが、街の人の関心が遠のいていくことは、たしかにそうだろう。では、なぜ関心が遠のいたのか。それは五〇〇回も入港したから。(あたりまえか) あれだけ危険だと騒いだ原潜が、五〇〇回もなんの事故もなく入港している。この教育効果。しかし、五〇〇回の入港は明日の安全を保障はしない。そして万が一の事故がおこれば、とカプランやグリーンピースの原潜事故のデータ、ジャクソン・デイビスの核事故被害想定を引用してあれこれ言うが、五〇〇回の壁はそう簡単には崩壊しない。だから、ゲートに集まる人は一〇〇人。(でも、よく集まった) では運動は衰退しているか。十二万人に比べれば、一〇〇人や二〇〇人はもの数ではないかもしれない。しかし、運動は形を変えてつなげて行く。例えば七日の平和船団。たった一隻だけ、三〇年前にはゼロだった。ゲート前の一〇〇人だって、そこで声を上げるから、次の運動につながる歴史が生まれる。

(今回は一九九七年)。準備委員会は、単に手続きを決める会議ではなくて、延長会議に採択された「原則と目的」などを実現するための提案を作ることもその仕事とされた。

強化された再検討会議が、単なる官僚たちの儀式の場に終わる可能性も否定できない。しかし、延長会議で得られた言質をもって、核保有国を追いつめる可能性のある会議の場が、今後引き続き存続することの意味は大きいのである。今後、NPT条約国会議の開かれぬ年は、五年に一年しかなく、その他の年には必ず会議が開かれる勘定になる。

### 「非核法」

#### 第一次請願を終える

この他にも核兵器をめぐっては、目を離せない状況がしばらく続く。核兵器の違法性を問う国際司法裁判所は実質審議を始める段階に入った。九六年のCTBT締結をめざして、国連軍縮会議(CD)は断続的にジュネーブで続けられる。

このような中で、日本の役割が改

めて問われている。とくにNPT会議がほとんど毎年開かれることになったとき、核兵器廃絶に向けて絶えず会議を牽引する国が必要だ。日本政府にその役割を果たさせることは、日本の市民の責任ではないだろうか。

その意味で、「非核法」制定の意義をあらためて強調したい。日本自身が、核抑止論に立ち、アメリカの核の傘に入っている現状を放置しては、いくら「被爆国」を強調しても日本がやれることには限界がある。冷戦が終わって、米ロが合同軍事演習をする時代になって、日本国民の多くも「核の傘」がもはや時代遅れであると考えているであろう。「非核法」は、新しい時代の日本の外交の立脚点を示す法律である。

六月六日、皆さんから送っていただいたの署名の中から二万四〇〇〇人分を添えて「非核法」の第一次の請願を行った。紹介議員には衆議院から石井紘基(無)、伊藤茂(社)、佐々木秀典(社)、菅直人(さ)、田中甲(さ)、海江田万里(民主新党)、山花貞夫(民主の会)の七人、参議院

から武田邦太郎(無)、千葉景子(社)、久保田真苗(社)、堂本暁子(さ)、国弘正雄(護憲リベラル、当時)、島袋宗康(二院)の六人、計一三人にお願いした。超党派の構成になるよう努力した結果である。

今回は、被爆五〇年の日までに第一次の請願を果たすために、準備不足ながら第二三三通常国会(六月一日閉会)中に請願を目指したものである。紹介議員の協力を得て、ともかくも国会に問題提起したわけであるが、まだまだ各党の関心は弱く、運動はこれからである。

署名運動は継続する。さらに、各人が地元選挙区で議員に働きかけ、各党の議員に紹介議員になるよう求める活動が必要である。その上に、超党派の「非核法制定議員連盟」の形成を展望したい。

地方議会でも「非核法制定を求める意見書」を採択する運動も前進している。「非核法」制定の成否は、私たち一人一人の市民が、本気になるかどうかにかかっている。



# 沖縄から

沖縄がかわれば、アジア・太平洋がかわる

## 報告⑨

「沖縄から」  
「オキナワボイス」  
編集委員

伊波洋一  
(沖縄中部地区労務局長)

〒901-22  
沖縄県宜野湾市志真志517-1  
沖縄キリスト教平和センター 気付  
TEL (098)898-6628  
FAX (098)897-6953  
郵便振替 鹿児島 2-11249

### 五十年目の「慰霊の日」

沖縄県では六月二十三日を「慰霊の日」と定め、県民の休日として沖縄戦で亡くなった人々を思い出す日になっている。

その日は県内各地や最後の戦場となった沖縄本島南部の摩文仁(マブニ)や米須(コメス)にある数多くの慰霊塔前で慰霊祭が執り行われ、正午からは県の慰霊祭も行われる。六月二十三日は沖縄の日本軍司令官が自決

し、四月一日から約三カ月続いた沖縄戦の組織的戦闘が終了した日とされている。しかし、司令官が自決前に最後の一兵まで戦って死ぬことを命じ、降伏させなかったために約一万人がその後に死んだという。

### 平和の礎(いしじ)

今年の「慰霊の日」に、沖縄戦五十周年として大田県政が進めてきた全戦死者の名前を石に刻む「平和の礎(いしじ)」が完成し、除幕式が行われた。

除幕式には、村山首相を始め衆参両院議長、最高裁長官の三権の長が出席、モンテール米大使と韓国、北朝鮮、台湾から代表者が参加した。

沖縄の米軍代表者は、県に制服着用を禁止されたために出席を事前に取り止めた。五十周年のため沖縄を訪れた数百名の米退役軍人家族も、一般県民とは別に参加した。石には二万四千八百八十三人の名前が刻まれている。内訳は、次のようになっている。

沖縄県民 一四七、一一〇人  
県外出身 七二、九〇七人  
米 国 一四、〇〇五人  
韓 国 五一人

### 主な慰霊祭

場所	時間
伊波部町慰霊祭	午前9時
伊波名村慰霊祭	午前9時
多良間村慰霊祭	午前10時
那覇商議内、和魂之塔	午前10時
嘉手納町慰霊祭	午前10時
嘉手納町慰霊祭	午前10時半
城辺公民館	午前10時半
大典寺・慰霊塔前	午前11時
同村・慰霊之塔	午前11時半
同村・慰霊之塔	午前11時半
同村・平和之塔	午前11時55分
泉出身戦没者慰霊之塔	午前11時55分
同村・慰霊塔	正午
同村・慰霊塔	正午
摩文仁慰霊之塔	午後1時
ひめゆりの塔	午後2時
南島慰霊之塔	午後2時
摩文仁・同校慰霊之塔	午後2時
神橋之塔	午後2時
台地之塔	午後2時
すなせんの塔	午後2時
朝陽南校之塔	午後2時
龍名慰霊塔	午後3時
同村慰霊塔	午後3時
同村慰霊塔	午後4時
一中健児之塔	午後4時

を認めず、六月二十四日に米退役軍人の追悼式典で仮設置された記念碑は米海兵隊が預かることになった。

### 沖縄戦と在沖米軍基地

沖縄中部の北中城村では、沖縄戦を題材にしたドキュメント「TENNOZAN」を書いた米国人作家のジョージ・ファイファー氏の講演会が開催され、米軍駐留に批判するファイファー氏と聴衆の半数を占めた米軍関係者との間で沖縄駐留の是非を巡って討論が展開された。米軍の沖縄駐留に関して米軍を含めて討論が行われたことはなく、数少ない沖縄戦の著者から米軍駐留を批判されたことは米軍関係者にショックだったようである。

北朝鮮 八二人  
台湾 二八人  
合計 二三四、一八三人

南北朝鮮の代表は、挨拶で強制連行された三十余万人の同胞のうち数千人が沖縄に送られたが十数万人がどこで犠牲になったか日本当局から説明がなく、氏名が明らかになった人はわずかであると指摘した。台湾の二十八名は台湾出身元日本軍人軍属である。沖縄住民の氏名は、市町村、字、番地、家族順に並んで刻まれ、一家族数名もの犠牲者を出した家族や、一家全滅も少なくない。二十余万人の氏名を刻んだ「平和の礎」は、多くの問題を問いかけていく。

### 戦死者の大半は一般住民

沖縄県民の大半は、非戦闘員の一般住民であった。沖縄で徹底された皇民化教育と捕虜になれば残酷に殺されるとして捕虜になる前の自決用に渡された手榴弾等で「集団自決」した人々も少なくない。

しかし、一般住民の多くは、上陸前から始まった「鉄の暴風」と形容される激しい艦砲射撃と地上の砲撃、さらに住民が避難している自然壕などへの手榴弾やガス弾、火炎放射

などで死亡した。

今年度の地元新聞には、元米兵のインタビュー記事が幾つも掲載されたが、沖縄住民が入っていた自然壕でも「デテコイ、デテコイ」と投降を呼び掛けられた後、出て来なければ手榴弾などで攻撃したことが語られている。

### シュガー・ローフの丘

一九四五年五月二日付けのニューズ・ウィーク紙はシュガー・ローフの戦いを「この世で最も悲惨な戦闘」と報道した。

シュガー・ローフと米軍が名付けた小高い丘は那覇市の天久再開発地区にある。五十年前に日米両軍の攻防が繰り返され、米軍の死傷者が約五千人に達した。

米軍人の被害が最も多かったシュガー・ローフの戦いを「最も悲惨な戦闘」と位置付けるのは、米軍側の視点である。

百日間に、非戦闘員の沖縄住民が約十万人も殺された沖縄戦は、無防備の沖縄住民に毎日「悲惨な戦場」であった。

戦後五十周年で米軍の退役軍人達がシュガー・ローフの丘に設置しようとしている記念碑の碑文を巡って、日米両軍の激しい戦闘での勇気を讃えるものとなっており、戦争賛美につながるとして、那覇市は記念碑の本設置

基地の外で日常的に繰り返されている米軍批判は、フェンスの中には届いていない。

新聞報道によると慰霊祭出席のために来沖したモンテール駐日米大使は二十四日、帰任前に嘉手納基地で記者会見に臨み、基地縮小について日米安保の軍事上の必要性とのバランスを強調し、「沖縄の基地が住民生活と協調できる配置状況であると思うか」と記者団の質問に見解を示さなかった。

二十二日付けのニューズ・ウィークタイムスは、沖縄戦についての記事を掲載し、現在の在沖米軍基地の状況と県民の反発を報道しつつ、「沖縄の米軍基地がアジアと日本の安全を保障していることを日米両政府とも認めている」と伝えた。

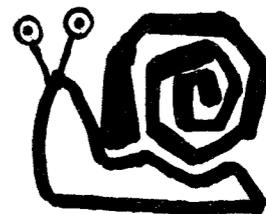
ところで、六月二十一日の沖縄地元紙の報道によると日米安保の再定義を進めているジョセフ・ナイ米国防次官補が、日米安保の重要性を指摘し在沖米軍を日本にとって利益であると述べ、「日本国内の世論が、米軍はいらないということになれば、もちろん即時撤退する」と述べた。

日米経済摩擦の激化と日米首脳会談で解決を約束した三事案問題が移設先から拒否されている状況への米国の苛立ちが見える発言である。この米政府高官の即時撤去発言に、さらに基地撤去の楔を打ち込む必要がある。



# 結局何も しなかった 「第2の基地県」 神奈川

紀司 勲  
「いのくら」事務局次長  
●  
非核市民宣言運動ヨコスカ  
新倉裕史



「国防認可法にもとづく国防省の報告書作りに関して、神奈川県はよくわからなかった」「たしかにそうだったね。昨年十一月二四日の『いのくら(県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会)』の交渉で、沖縄県から要請があったことが明らかにされたのがこの始まりだったけれど、結局神奈川県はなにもしなかった」

「内部資料だといって、県がしぶしぶ読み上げた沖縄県からの要請には、こんなことが書かれていた。つぎまはしては当報告書に、沖縄を含めた在日米軍基地について、地元から要望の強い米軍基地の返還、整理、縮小をはじめ、航空機騒音、環境汚染等、米軍基地の存在およびその事由にともなう諸問題が、適切に報告書に反映されるよう要望します。宛先は、各在日米軍基地、駐日米国大使館、外務大臣、防衛庁長官」

「十月の渉外知事会で沖縄県はこたわけた」

「たよね」

## 危険な弾薬の貯蔵と輸送

ピースリンク広島・呉・岩国

私たちの住む広島県は、貴国の原爆投下によって被爆した多くの市民とその関係者が暮らしている。そのヒロシマ県内にある秋月弾薬庫は、川上(二六〇)、東広島市、広(三六)、呉市、秋月(五五)、江田島)の三つの弾薬庫から構成され、計十二万トンの弾薬が貯蔵されていると言われている。

### 湾岸戦争に弾薬供給

朝鮮戦争では秋月弾薬庫からの弾薬の供給なしに、米国は戦争を続けられなかったと言われている。朝鮮半島に近いという秋月の地理的位置がヒロシマをして再び血塗られた町にしてみせた。そしてベトナム戦争でも秋月は同じ機能を果たした。この時は核地雷などの運び出しが国会でも何度となく問題になった。そして湾岸戦争への

弾薬の供給である。九一年の末、秋月弾薬庫司令官は隊員向けの年末メッセージで「今年の最大の仕事は湾岸戦争にわが弾薬を供給したことにある」と述べている。そこには「秋月は過去四十年間、太平洋地域の安定のために重要な寄与をしてきた」とも書かれている。秋月が安保条約の六条に違反する存在であることを自ら表明している。「複数のPREPO(事前配備)船に積んだ我々の弾薬は真つ先に砂漠地帯に陸揚げされた。いつでも使用されるよう準備された。PREPO船とは弾薬の事前配備船の略である。ここ数年呉にきているPREPO船は「オーストラルレインボー」「グリーンアイランド」「グリーンハーバー」の三隻である。これらは二、三万トン級の弾薬輸送船で一隻で万単位の弾薬を運ぶことができる。それらは八八、九十年にかけて呉に来、広、秋月弾薬庫の沖に約

## 3. 秋月 (広島県) 岩国 (山口県)

2月23日アメリカ大使館に提出。  
沖縄の提案にもかかわらず、前ページのように他の自治体は動かなかった。国防省の「日米安保見直し」に対する地域からの問題のなげかけは、沖縄をのぞけば私たちのこの意見書だけだったのではないだろうか。

在日米軍基地  
に関する  
基地周辺住民  
の意見

# 陸軍秋月弾薬廠

四五日にわたって「弾薬の海上保管」を行い、弾薬の点検・修理をし、インド洋のディエゴガルシア基地へ供給してきた。司令官のメッセージは、これらの海上保管されていた弾薬が湾岸危機の直後、いち早く砂漠地帯に持ち込まれたことを当事者の言葉として明らかにした。更に開戦直後の一月二十日には弾薬庫から佐世保へと湾岸向けの弾薬が持ち出された。弾薬を積んだトレーラーは呉市内を通った後、海岸沿いを走り、こともあろうに広島市内を通過した。被爆地ヒロシマは知らないうちに戦争向けの弾薬の通過地点となってしまう。私たちは、これを総称して「湾岸戦争がヒロシマを走った」と表現した。こうして秋月は戦後の三つの大戦争に深く関与したのであり、これは明らかに安保条約に違反している。私たちの町から大量の人殺しの道具が持ち出され、アジア民衆を殺し続けてきたことを許すことはできない。

## 危険と隣りあわせの生活

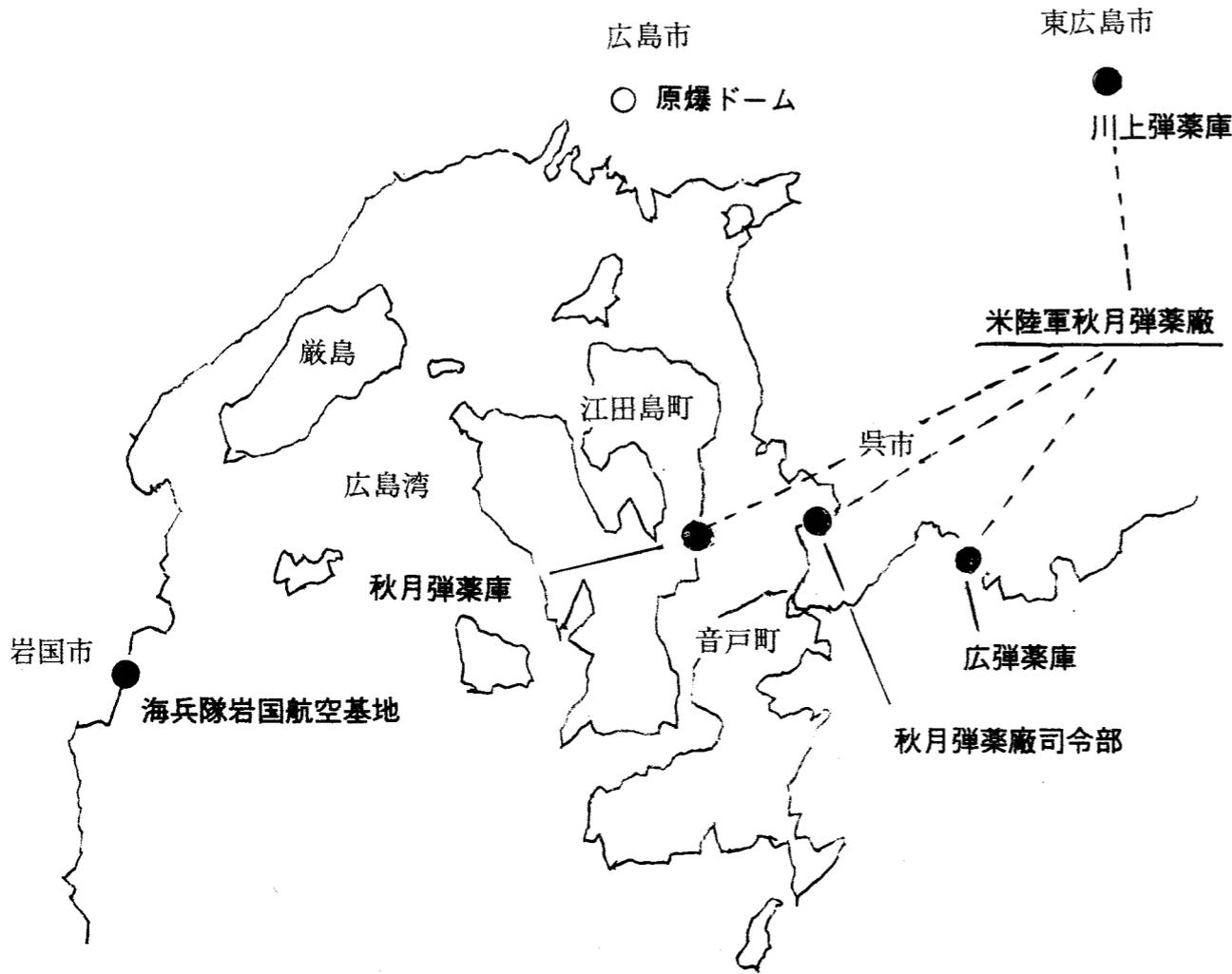
他方では、市民は、弾薬の貯蔵や移動に伴う危険性と隣り合わせて暮らすよ

うに強いられており、基地がなくなるまでの間、住民の安全性に関してさらなる配慮をされるよう心から要請する。第一は「海上保管」の危険性である。広、秋月弾薬庫の提供水域付近で行われた海上保管では、海上に浮いたコンテナに弾薬が入っていることを示す赤旗が二本づつ立てられ、コンテナを弾薬庫に接岸させては蓋をあげ、弾薬クレーンで陸揚げし、トラックに載せていた。弾薬は洞穴の貯蔵庫へ運んだり、駐機場の広場へ野積みされていた。検査や入れ替えを終えたものは再び海上のコンテナに移された。コンテナには夜間の照明用の灯火もなかった。このようなことが、一ヶ月半も続いたのである。多くの市民が、この作業に伴う危険性を憂慮し、関係機関に訴えてきた。米軍自身がそれを懸念しているという証拠もでてきた。米陸軍の作成した「世界規模の弾薬港湾研究」によると、作業に伴う災害で被害を受ける数は計四五〇〇人と想定されている。棧橋での弾薬荷役や、トラック輸送にも危険が伴うことは間違いない。交通事故や車のトラブルなどで何が起こるか分からない。特にトラック輸送は

人通りの多い交差点や商店街のそばを通る。トラックは危険な弾薬を積んでいることを示すために、「火」と書いた板をかけているが、それが何を意味するかわかる人はほとんどいない。多くの市民が日頃から危険となりあわせで暮らすよう強いられている。実際、過去に三回ほどエンジン加熱で白煙を吹き上げたことがある。しかも米軍は、「弾薬港湾研究」のなかで危険度1の弾薬は広では扱うべきでないという勧告をしているにもかかわらず、毎年数回は、危険度1を陸揚げし、トラックで横須賀、佐世保、三沢など各地に輸送している。これを知っている自治体は呉市だけである。

## 「思いやり予算」への疑問

このような基地を維持するために私たちの税金が使われていることについて、多くの市民は強い不満を持っている。軍備に直接関わりなく、かつ基地に放るような予算の多くは日本の「思いやり予算」によっている。音戸町の米



軍将校用の住宅が思いやり予算で建設されている。川上などの弾薬庫、道路の改修、消防署、車両整備工場の移転、施設工作隊作業場の移転、一般倉庫の建設など枚挙にいとまがない。

呉市議会では、これまでに六回ほど市内の「広弾薬庫の返還」決議をあげている。広島県議会も、広、川上、秋月の弾薬庫を返還せよと決議しつづけてきた。これまで述べてきた私たちの思いは、議会や市当局の思いであることを良く認識してほしい。私たちは、住民の命が脅かされる中で弾薬庫が存在し、そこで扱っている弾薬が戦場に運ばれるという加害と被害の二重性から解放されることを切望する。狭い市域の中でも、わずかに残る自然海岸や緑なす山を市民の身近なものにするために、早急に弾薬庫を「返還」されるよう重ねて要請したい。

在日米軍基地に関する基地周辺住民の意見

在日米軍基地に関する基地周辺住民の意見

埋立てによる基地拡張の中止を  
ピースリンク広島・呉・岩国

岩国は山口県の最も広島寄りにある商業都市である。市の中心部の三分の一を貴国の海兵隊基地が占有している。貴国の海兵隊が海外に持っただ一つの航空基地であり、ハリヤー、ホーネットなどの最新鋭機が配備されている。

(1) 加害

岩国基地は朝鮮、ベトナム戦争に深く関わっている。これは詳細に語れば膨大な話があるだろうが、ここでは省略する。湾岸戦争は三度目の関わりとなった。開戦前の九十年十二月、A6Eイントルーダー十機で構成する全天候攻撃中隊がフィリピンを経て中東に向かった。垂直離着陸機AV8BハリヤーII十九機も出ていった。出発前に従来の緑と灰色の塗装を砂漠向けの黄土色系統の三色迷彩に変えていた。一月十七日の開戦からの空爆に参加し、一方的な戦争を担った。

(2) 被害

岩国基地の存在は周辺住民の安全、健康を日常的に脅かしている。その典型は騒音被害と飛行機事故の恐怖である。

過去に何度となく攻撃機の墜落事故が起きている。最近の例では九十年一月二十七日、AV8BハリヤーIIが沖繩の北東一八五キロの海上に墜落し、機体・乗員とも消息不明の事故が起こっている。同年六月一二日には愛媛県野村町の山中に岩国基地所属のFA18ホーネットが墜落した。これは半年間修理のため飛行を中止していたが、墜落二週間前に修理を完了し、事故当時慣らし飛行中であった。またヘリコプターが伊方原発すぐ脇に墜落したこともある。これらは飛行機事故と原発が重なって重大な事故を起こしかねないことを示唆している。

最近では、訓練空域にないところで

訓練を行い、ワイヤーなどを切断するという事故が起きている。高知県と徳島県にまたがる地帯、中国山地の峰などで危険な低空飛行訓練が繰り返されている。これまで訓練機は横須賀を母港とする空母の艦載機と見られていたが、そればかりか岩国所属のFA18Dナイト・アタック・ホーネットの確率も高い。

基地のまわりの住民にとって、より切実な問題は航空機による騒音被害である。中でも空母艦載機の着陸訓練は騒音のひどさや回数が多く、通常の生活ができなくなるような騒音状態が続く。着陸訓練は「滑走路を空母の甲板に見立て、着陸と同時に再び離陸する訓練で、空母艦載機にとっては不可欠の演習である。エンジンのパワーを全開にし、何度も繰り返すので騒音はひどい。特に夜間の訓練はひどく、市民からの苦情は相当数にのぼっている。

(3) 基地強化になる滑走路沖合移設の

在日米軍基地  
に関する  
基地周辺住民  
の意見

中止を！

現在、基地滑走路の沖合い移設をするための基地沖側の海面二一五メートルを埋め立てるといふ計画が動き始めている。埋め立て予定地には、良質な藻場と干潟が広範囲に存在しており、これらは、周辺の海域においても生物の再生産過程にとってきわめて重要な役割を果たしていると思われる。瀬戸内海では、藻場や干潟が激減しており、それを守ることは将来にわたって日本人にとって極めて重要な意味を持っている。基地の強化のために、その大切な藻場と干潟をつぶすことだけはやめていた

だきたい。これにより基地の敷地は四〇%増える。米ソ冷戦の終結で、国際的に軍縮の動きがあるなか、何故基地の強化と恒久化につながることをやらねばならないのか理解ができない。しかも、その財源は私たちの税金である。約八年かけて、計一三〇〇億円の税金が埋め立てのために使われる。日本の国土は狭量であり、その中でも一等地を貴国の軍事基地が占有している状態について、殆どの市民は強い不満を持っている。基地のない、軍備にたよらない地球をつくる第一歩として岩国基地の撤去を求めたい。

原子力艦  
入港情報

(73)

1995.6.1~6.23

S=原子力潜水艦(原潜) スタージョン級  
L=原子力潜水艦(原潜) ロサンゼルス級

- ◆ 6/7 13:50 原潜ニューヨークシティ(L) 横須賀に入港。
- ◆ 6/13 18:05 原潜トートグ(S) 佐世保に入港。
- ◇ 6/14 13:52 原潜トートグ(S) 佐世保を出港。
- ◇ 6/16 13:58 原潜ニューヨークシティ(L) 横須賀を出港。
- ◆ 6/22 14:18 原潜タニー(S) 横須賀に入港。

● 1995.1.1から6.23までの各地の原子力艦入港回数：( )内は原潜

・横須賀	15 (15)
・佐世保	2 (2)
・初代ビナ (沖繩・勝連町)	3 (3)
合計	20 (20)



● \*図表付き、青木さんの「思いやり新協定にNO!」明解! \*何時もありがとうございます。今や横須賀どころか都内へも「決心」してしか出られない人間。皆様のご健闘祈ります。\*(前号の) 逗子の高橋さんの投稿はショックでした。地下鉄サリン事件があったとして防衛費削減は言い続けます。宗教法人の問題とは別では? (リーク報道の方が問題)。軍隊というものが何をしたのか、どうぞ明治以後の日本の近代史で、民衆を抑圧してきた事実にも目を向けてください。\*今、「非核法」を言っ

て歩いていますが「知らない」人が多く「これでいいのやら」と憂える矢先、中、私の核実験の報。叶べくば、大使館に抗議デモにとも思いつつ、せめて抗議ハガキ位は、と宛先(住所やTel)を載せて頂けたらと存じます。\*NGO核廃絶グループ声明に兵器のみでなく、すべての放射性物質の産業利用と再処理禁止も盛り込まれ嬉しい

ことです。これが実現される様、ますます草の根の私たちが問われると痛感。

(国分寺市/斎藤美智子)

● 皆さん、今年の夏はフランス大使館に暑中見舞いを書きましよう。住所は以下のとおりです。

東京都港区南麻布四十一-四四

☎〇三(五四二〇)八八〇〇

(千葉市/岩野志麻子)

● NPT論議は狸の化かし合いみたいでとてもマジにはやっておれない。日本は憲法通り先づ自ら非武装中立を厳守することだ。アメリカの核の傘にかくれて非核を叫ぶのもおかしい話だし、世界の兵器輸出が五五%のアメリカも平和を語る資格はない。正に死の商人だ。国際貢献に名を借りるPKOは軍需産業継続のための手段としか思えない。また保守議員への献金の土壌作りだ。一国平和主義が何故悪い。平和の見本を作るべし。私は日本山妙法寺の「武器は持たない。人を殺さない」がモットーです。陸軍二等兵で復員。八〇才。

(伊東市/川原満雄)



## 事務所が移転します

7月からキャッチピースの事務所が下記に移転します。郵便はこちらにお願いします。電話・FAXはとりあえずの番号です。次号で正式にお知らせします。

〒222 横浜市港北区錦ヶ丘2-10 ハイッ幸1-B

(東急東横線・JR横浜線菊名駅から徒歩5分)

電話・FAX (仮) 045(593)1824 田巻

\*封筒や読者カードは、在庫がなくなるまで旧住所のものを使わせていただきます。

## ふたたび 会費・カンパの お願い

前号での「お願い」に、さっそく会費やカンパをお送りくださったみなさん、ありがとうございます。赤字(借り入れ)は埋めることができましたが、下半期の活動を支えるにはまだまだ足りない状況です。ひきつづきよろしくお願ひします。(会計担当)

## 編集室から

♥ 紙面の都合で「編集室から」は無し、のはずだったのだが、ドタン場で立派にスペースができてしまった。そこで独演とさせていたきたい。来る七月七日、横浜は大倉山記念館で編集委員(み)さんプロデュースによるちよっとした「大人の学芸会」がある。題して「夏の夜のスパークリング」。呼び物は首都圏初の「オウム劇」。(ま)さん率いるバンドも出演の予定。かくいう編集長も何年ぶりのギターを抱え乱入予定。おヒマならどうぞ。え?もう終わってる? まいっか!  
(た)

## 月刊キャッチピース

No. 32 (通巻111号)

発行●脱軍備ネットワークキャッチピース  
連絡事務所●〒222 横浜市港北区錦ヶ丘  
2-10 ハイッ幸1-B

☎/FAX (仮) 045(593)1824

(田巻気付)

編集●月刊キャッチピース編集委員会

郵便振替●00160-7-136148キャッチピース

定価●100円(通信会員年間3000円)